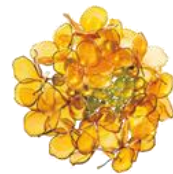


メルヘンハウス通信



春はあけぼの

今月の和とく情報

キモノの収納

着物の収納に「桐たんす」を嫁入りに持たせられた方も多いのではないでしょうか。そもそも「桐たんすやたとう紙がなぜ着物の収納に向いているの?」「それらの収納方法はどうかやれば良いの?」などを知らないまま使っている場合もありますね。

これからの和とくポイント

桐たんすの利点と収納方法



桐たんすはなぜ良いと言われるの?

桐たんすが着物の収納に1番良いと言われる理由は桐が持つ性質の主に5つにあります。

- ・防湿効果：桐は湿気を調節する性質を持っているため、多湿の時は桐そのものが湿気を吸収してくれます。
- ・気密効果：湿気の多い日は膨張して外からの湿気を防ぎ、反対に空気が乾燥すると湿気を発散し収縮します。
- ・抗菌効果：桐の成分パウロニン、セサミンには抗菌性がありノミヤダニなどの虫をつきにくくしてくれます。
- ・保温効果：多孔質(ミクロの小部屋が多い)で、空気を多く含み保温効果で中の温度を一定に保ってくれます。
- ・防火性：桐自体の吸湿性により水分を多く含み、他の木材に比べ、着火、発火が遅く燃えにくい。

以上のような理由が、着物の収納に桐たんすが1番良いと言われる理由です。

桐の特徴を知り尽くし、着物の保管の為に使い始めた昔の人の知恵は素晴らしいですね。

桐たんすの収納の仕方は?

桐たんすの大きさや形、ご自身の着物生活によって、収納の仕方は変わりますので一つの参考として下さい。特徴として、同じたんすの中でも上の方が下の方より湿気が少ないので、大切なものを上に入れると良いでしょう。

普段はあまり着ない留袖、留袖用の長襦袢、帯、喪服一式などを、1番上に、入れ方は、留袖用の帯、留袖用長襦袢、留袖の順にいれると1番上に着る留袖に負担がかからず、シワも付きませぬのでおすすめです。

次の段は色留袖、訪問着、色無地などを入れると良いでしょう。

その下の段に、付けさげ、小紋など染めの着物を入れますが、絞りの着物などは重みのかからないように一番上に置きましょう。

後は順に、結城紬など織の着物、羽織、コート類など羽織るものなどを入れます。

帯類は帯だけの段を作って入れても良いですね。

小引き出しには、帯あげ、帯メを入れ、盆には、乱れ盆として着用時に使う帯板、帯枕、伊達締、腰紐など、着付けに必要な小物などを入れておくと良いでしょう。

今日もきもの気分

やしま呉服店からのお知らせ

4月の催事・イベント

◎春のやしま祭り...24日(金)~28日(月)

◎ポーセラーツ教室...16日(木)

その時々に合わせて♪
飾ったり食器としてもステキ♪



只今、生徒さん募集中!

先ずは見学からでもOKです!



※各詳細のお問い合わせはお店まで

さくらきもの学院

きもでお出かけできる、大人の女性を目指そう!

きものらくレッスン



◎HP: <http://jtti.jp/sakurawasou/>

◎Fb: <https://www.facebook.com/sakurawasou/>

※ レッスンのお申込受付ます!

・マンツーマンレッスン: 初等科6回

・1dayレッスン: 500円/回

※詳細はさくらきもの学院事務局まで